

第8回熟議『学校選択制』（8月8日）Aグループ 主な意見とまとめ

【主な意見】

（特色ある学校づくり）

- 特色ある学校づくりは凄く難しいような気がする。校長先生も変わられる。校長先生は経営者だから、その学校をこういうふうにしようと思って、いろいろやられるかもしれないけれども、5年後にもしかしたら違う校長先生が来られて、後を引き継ごうと思ってもスキルが全然違ったりとか、小学校6年の間に、こうと思って入ったら、また変わってというのはたまらないし、非常に説明し辛い、納得しにくいものはある。
- 小学校はロケーションの問題があって、学校選択制のメリットが何かというと、行きたくもない学校ではなくて、ここの学校に行きたいとか、そういう選択ができる事が最大の魅力であって、特色って出せるのか、それがどこまで魅力のあるものかというところは、正直言って分からない。
- 小学校でそんなにバラバラの特徴を出せるのかというと、非常に難しいところもあると思うし、その学校にその子が合うかどうかというのは、子どもの個性が出て来る10歳くらい、5年生くらいからで、1年生や2年生の子を見ながら、うちの子が入学するにあたってどこが良いかというのは、学校の特色的なものでは選びにくいのではないかと感じる。

（学校選択制のメリット）

- 最大のメリットは近いところに行けることだと思う。
- 位置関係で、同じくらいの距離感なら、幼稚園のお友達が多くて、こちらも選べるとか、そういうところは非常に大きなメリットを感じる。
- メリットのなかで、開かれた学校づくりというのが一番大きいのではないと思う。学校も保護者から教えてもらう話も結構あるので、そういう面で互いにやりとりが盛んになれば良いのではないと思う。
- メリットをあげるとすれば、積極的に子どもたち、保護者が意見を言う機会を保障しているということ、そういう性格があると思う。選択制の根拠になっている、予め意見を聞くことが出来るということは、これはどなたでも、自分がどういう学校へ行きたいかという意見を表明する事が出来るという点がひとつのメリットとしてあげられる。

(校長の異動)

- 継続性の問題があり、校長が変わったからといっても、前任者がされてる教育については、基本的に引き継ぎながら、その中で自分がどう変えていくかという形になるし、学校協議会の制度も入ってくるので、そのなかで学校の教育、指導計画については、前もって学校協議会の中で話し合いをして決めていくということなので、ガラッと変わるということはあまり心配しなくてもいいのではないかなと思う。ただ、例えば土曜スクールをやっている学校があって、校長として、自分は土曜スクールをやらなくていいのではないかなということ、そういうところが変わるということはあるかもしれないし、あるいは土曜スクールをやって行こうということもある。ただ、普通の教育課程については、それほど変わることはないと思う。
- 小学校は、地域と密着している部分が大きいの、校長がいきなりこういう特色のある学校を作ろうと思って引っ張るのではなく、まず地域の方に学ぶというのが、最初の一学期間であり、そこでどのようなマンパワーがあって、どのような地域の良さがあって、子どもの良さはここだと、うちの教職員のスタッフの良さはここだ、というので計画していくので、ある空想の、理想像の学校を押し付けるのは、ちょっと馴染まないと思う。

(特色ある学校づくり)

- 特色ある学校づくりというのは、保護者が、その学校が頑張っているよという、ある意味では褒め言葉だと思う。特色ある学校づくりというのは、学校側が言う話ではなく、保護者が特色ある学校づくりをやろうとされているということだと思うので、どういう風に言葉を選ぶのかは非常に難しいが、特色ある学校づくりというのをもう少し別の言葉に変えたらいいと思う。
- イメージしている特色は、朝、必ず体操するとか、地域の行事で、学校で出し物を作るとか、地域の特色が学校の特色になっているような形だと思う。
- 公募の校長先生が来て、例えば英語で全部やるという授業を設けるとか、そういう事でなくて、地域でやっていた事を続けるとか、あそこの学校は、あれが有名だというのを作るのであれば、別にこれまでやっていた事とそう変わらないという感じもする。それ以外の特色は、学校選択制を入れた時に、どうなるかということを考えると、予算に強弱がついたりして、英語が強化できるというようなことが特色になっていかなるを得なのではないかなと思う。
- 地域と学校の関係は、特色ある学校づくりの一つだと思う。小学校で伝統野菜を作る授業を、地域のボランティアと植え方とか一緒に教えてもらって行ったが、学校の特色というのは地域の特色だと思う。せっかくこの校区にいたらこの校区の、特色ある学校でここにいて欲しい、来てほしいというのも、

逆に言えば、その流出防止の特色というのは一つの方法、これも一つの学校選択制の中のプラス面の特色づくりだと思う。

- 選択制をやることによって、直ちに特色ある学づくりが大幅に、ドラスティックに出来るということについては疑問が残るが、それが契機として、結果として情報公開とか人の連携というのが図られていけば、特色ある学校づくりというものが推進されて、その結果、子どもたちの為になる事も否定できない。

(学校の情報公開)

- 情報公開、風評被害みたいに昔は悪かったというような、今は変わってるけれども、特に中学校で、あの学校は悪いとかがあがるが、それも、ちゃんと情報公開して、今はこうなっていますよと、こういうふうにちゃんとやっていますよと、そういうことも非常にメリットじゃないかなと思う。風評をコントロールするとは言わないが、ちゃんと情報公開して、学校案内に、こういうところに力を入れて、人員も配置しているとか、この高校に何人が進学したとか、そういう情報が、噂話とかではなくて、ちゃんと情報公開するのは大きなメリットと思う。
- もし、この選択制をやって減るような傾向とか、減っているというような事があれば、やはり何が原因で減るのか、どこが問題なのか、きちんと精査をして対策をとらないといけない。真っ先に優先してお金と人をつぎ込んで、学力保障ができる、将来、きちんと生きていけるような子どもを育てる体制を作っていないといけないと思う。もしかしたら、学校選択制によって、これまで分からなかったところが出てくるかもしれない。ただ出てきたままで、放置してはいけない。ケアすることが必要であり、それを条件にすれば、前進が図れる部分があるという気がする。
- 情報公開の種類も重要だと思う。例えば、どこの学校へ何人が進学したというデータがあったとしても、平均点は、ほとんど意味が無い。その学校の平均点を出されても、真ん中の子はいないかもしれない。だから、この子たちはそういうところに進学してるかもしれないけれども、この子たちは進学できないかもしれないというような、こういうデータの公開の仕方というのは、やはり風評の素になると思う。学校の学力をどこで見るのかという事になると思うが、メリットというふうに考えると、学校の学力がわからないと行けないということになると思う。学校選択制をやると、どうしても学力などの基準、学校を判断する基準というものが無しでは通らないと思う。どのみち必要になってくると思うが、それがデメリットと表裏なのではないか。
- 問題は保護者の側にあると思う。数字しか見ないし、学力は、点数だけでないものも含んでいるというのを、いろいろなところで評価の仕方を学校や行政

が変えてきたとしても、なかなか保護者の方では理解出来ないで、進学率や点数とかに飛びついてしまうと思う。それが他の地域で廃止した、デメリットの風評、校舎が新しいとか、パソコンの機器が新しく入ったとか、学力だとか、親心としたら、そういうものでしか簡単に判断出来ないのも、教育全体のこととか、全体の学力の事とかを考えて選ぶのではないと思う。だから理想とするような学校選択制を入れるために、入れた後にメリットがどこまで保護者に理解されるのかというのは、保護者の中にいて、凄く疑問に思う。

(指定外就学基準の拡大について)

- 24区はそのまま考える、区ごとに選択制を考えるということであれば、この区は選択しているけれども、隣の区がやっていないから、本当は隣の区の方が近いけれどもという時には、隣接校で自宅から近いが、隣の区であるというのであれば、ここで緩めていただいたら、選択をする基準というのは、非常に楽で、ややこしく組まなくてもいいんじゃないかと思う
- 現在、認められていない通学の利便性、地理的要因ですが、距離で2〜3キロだったら、指定外就学を認めていいのかなと思います。
この通学の利便性と部活動は認める必要あるのかと思う。利便性は、距離で縛りをかければよいとは思いますが、遠くもないのに、こっちの方が近いと言いだしたらキリがないし、部活動にしても、その部がないというのは、気持ちは分かるけれども、これは指定外就学を認める理由になるのかというと、ちょっと違うのではないかと思う。